

ミライカフェほの国2019の開催概要

目的

東三河地域を「住み続けたい町」「住んでみたい町」に変えていくため、高校生によるグループワークや、ビジネスプラン・地域づくりの取組発表を通じた意見交換を行い、地元への関心や愛着心を高めることを目的に開催しました。今回で6回目です。

実施概要

- 日時：2019年2月2日（土） 11:00～15:30
- 場所：開発ビル6階601(豊橋市駅前大通2-33-1)
- 参加校：渥美農業(5名)、桜丘(8名)、豊橋工業(1名)、福江(2名)、三谷水産(8名)の5校 24名(男子19名・女子5名) 引率教師10名
- 一般来場者：6名
- コーディネーター 内浦有美 (株)うちうら 代表取締役
谷口庄一 (株)リージョナルブレインズ代表取締役
他2名

グループワーク

- 「自分の住んでいる町の好きなところ／嫌いなところ」、「まちがこうなればよい」、「こんなまちに住みたい」について、グループワークを通じて、課題を明らかにしながら意見交換しました。



ビジネスプラン・地域づくりの取り組み発表

(1) 渥美農業高校

「未利用資源の活用
～白いカレー商品化への道～」



(2) 渥美農業高校

「高校生が挑戦！豚肉の肉質
向上計画！」



(3) 三谷水産高校

「三河湾 体験型ツアーの企画」



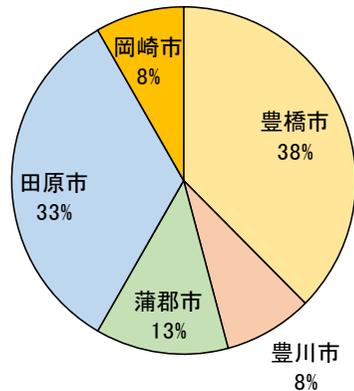
(4) 桜丘高校

「朝倉川・身近な自然環境を
考える」

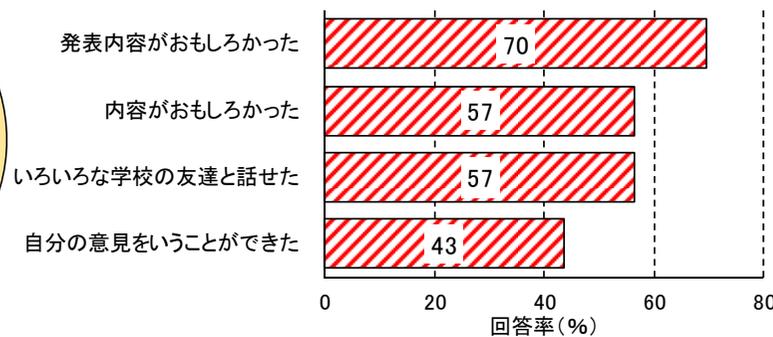


アンケート 結果等

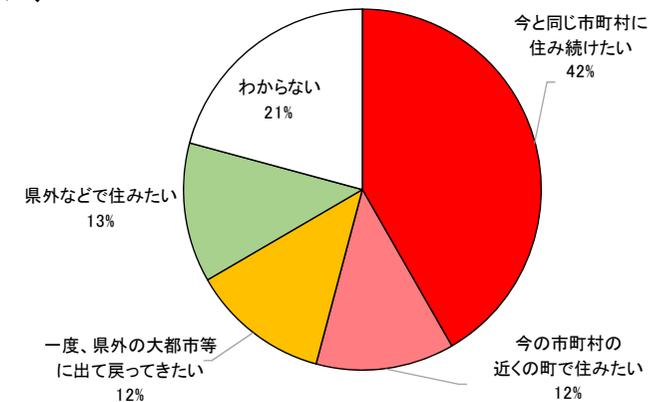
- ・ 住居地は92%が東三河で、本事業について、「発表の内容がおもしろかった」(70%)、「いろいろな学校の友達と話せた」(57%)、「内容がおもしろかった」(57%)と満足感を得られています。
 - ・ 今、住んでいる場所に住み続けたいかどうかでは、「今と同じ市町村に住み続けたい」(42%)、「今の市町村の近くの町で住みたい」(13%)を合わせると半分以上を占め、「一度、県外の大都市等に出て戻ってきたい」(13%)を加えると66%が地元定住等の指向が強くなっています。
- ※グループワーク時に聞いた「25年後、自分の街に住んでいるか」
『住んでいる』 11人(46%) / 『住んでいない』 13人(54%)



■ 参加生徒の居住地



■ 本事業に参加して良かったこと



■ 現在の居住地への定住指向

印象に残っていること

【住む場所の違い】

- ・自分とは違う学校生活を送っているということ（三谷水産）。
- ・それぞれ住んでいる場所が違って、聞いていておもしろかった（三谷水産）。
- ・住んでいる地域で思うことが多い。（渥美農業）

【共感】

- ・田原に住んでいる人と意見が一緒で、共感できることが多くあった。（三谷水産）
- ・住んでいる市町村が違って、皆同じような意見、こうなってほしいということが多くて、共感できることが多くあった。（三谷水産）
- ・自分が思っていたことと同じ人がいて、共感できた。（福江）

【色々な意見】

- ・地域の事をみんなしっかりとした意見すごい。（三谷水産）
- ・別の視点を知ることができた。（三谷水産）
- ・自分では思いつかなかったことを周りの人から聞いた。（三谷水産）
- ・25年後、地元にいるかで、皆いないを答えていた。各々自分の目標があり、すごい。（桜丘）
- ・皆が自分のなりたいものを話していて楽しかった。（桜丘）

【将来のこと】

- ・25年後、班のほとんどの人が自分の町に残ると聞いて驚いた。（桜丘）
- ・地元に着用を持っている人や、逆に都会へ行きたい等の様々な意見が聞いた。特に25年後の時の話し合いがおもしろかった。（桜丘）
- ・ワークショップで話した、住み続けること。（渥美農業）

【高校の活動】

- ・今まで知らなかった活動を知ることができた。（桜丘）
- ・他の学校がいろいろな活動をしている。（桜丘）
- ・色々な活動をしている高校生がいる。（桜丘）

【その他】

- ・キャラの濃い人がいて、面白く意見交換できた。（三谷水産）
- ・多少、発表力がついた。（渥美農業）
- ・それぞれの学校がある地元の自然への思い。（渥美農業）
- ・夢がビッグ。（渥美農業）
- ・遊ぶ場所が欲しいという意見が多かった。（福江）
- ・田舎の様子。（豊橋工業）

関心を持ったこと

【地域の魅力】

- ・魅力はまだまだ見つけられていないだけで、沢山ある（三谷水産）
- ・他の高校の発表を聞くと、まだまだ知らないことばかり（桜丘）
- ・地元の私が知らないいい所（桜丘）
- ・レジャー施設やバリアフリーなどが、どれだけあるのか気になった（桜丘）
- ・自分の地元以外に、とても良い、きれいな自然があることを知り、見に行ってみたい（渥美農業）
- ・農業だけでなく、水産業や小さな川からも地域のことを思って活動している（渥美農業）
- ・住んでいる地域から少し離れただけで、地域を豊かにする方法がたくさんある（渥美農業）
- ・自然が豊かで色々な商売もできる（福江）
- ・漁業（桜丘）

【地域の資源】

- ・海もあって、ツアーや豚の改良、カレーの製作に関心を持った（三谷水産）
- ・未利用資源の大切さ、他校との連携（三谷水産）

【地域の自然】

- ・朝倉川にとっても興味を持った（三谷水産）
- ・川の生態系に関心を持てた（三谷水産）
- ・生物に対する気持ち、自分も生物が好きなので楽しかった（三谷水産）
- ・特に生物について、もっと大事にしていきたい（渥美農業）
- ・自然のことを生かして色々なことができること（福江）

【地域づくり】

- ・地域を活性化させることに興味を持った（三谷水産）
- ・農業が盛んだから、もっと盛んになれるようにしている所（桜丘）
- ・それぞれの地域の暮らし、学校の特徴（三谷水産）
- ・いろいろな高校が、東三河地域のPRをしている（桜丘）
- ・他の高校がやっていること（桜丘）

25年後の東三河はどんな街になっていて欲しい！

【知名度を上げる、PR】

- ・東三河のそれぞれの**地域が認知**されてほしい（三谷水産）
- ・蒲郡をもっと知ってもらいたい（三谷水産）
- ・**東三河の良さ**をもっとPRすればよい（三谷水産）

【施設整備・近代化】

- ・**遊べる施設**が増える（三谷水産）
- ・近くに**ショッピングモール**ができてほしい（三谷水産）
- ・駅前**の活性化**や、生活や豊かになるような**施設等**があるといい（桜丘）
- ・いろいろと**近代化**してほしい（渥美農業）

【賑わい】

- ・地域の**活性化**が進んでいる人が多い場所になっているといい（三谷水産）
- ・**人口は減って欲しくない**（渥美農業）
- ・人々が**豊かに楽しそうに住んでいる**（渥美農業）

【活性化】

- ・**高校生が活発に行動できる町**（桜丘）
- ・町が**発展して欲しい**（福江）
- ・様々な事が**活性化**してほしい（桜丘）
- ・ポイ捨てが**なくなる**といい（桜丘）

【利便性】

- ・自然はそのまま、**交通の便がいい町**（桜丘）
- ・**交通費が安くなっている**（福江）

【豊かな自然がある街】

- ・今と少しは違っても、**自然の多い町**でいて欲しい（三谷水産）
- ・今の雰囲気や、**自然の豊かさは維持**して、今よりも住みやすくなればいい（三谷水産）
- ・自然を残しつつ、**色々な年代の人が多く集まる**ような町になってほしい（渥美農業）

【高齢者・子どもが住みやすい街】

- ・**高齢者も子どもも住みやすい町**（桜丘）
- ・**老若男女が住みやすい町**にして欲しい（桜丘）
- ・**老後、若者もどちらも住みよい町**になってほしい（渥美農業）

【そのまま】

- ・そのままの形で今をつくっているの、**そのまま**でいてほしい（三谷水産）
- ・余り**今と変わらない**でいてほしい。いつどんな時に帰ってきても**変わらない風景**を、大人になってから見てみたい（桜丘）
- ・**変わらないことを続けられる**ように変わってほしい（豊橋工業）



東三河の特色こう活用

豊橋 高校生、事業プラン発表

東三河の高校生が魅力ある地域づくりを考える「ミライカフェ」ほの国が二日、豊橋市駅前大通の開発ビルであった。それぞれの地元の特徴に沿ったビジネスプランや地域研究について発表した。

東三河県庁と東三河地域

三河湾の観光ツアー企画を発表する三谷水産高の生徒ら。豊橋市駅前大通の開発ビルで

研究センターが主催し、今年で六回目。豊橋市や田原市、蒲郡市の五校から二十四人が参加した。

渥美農業高（田原市）の

生徒は、養豚場に工夫を施し、動物にとってストレスを少なくする育て方のアイデアを披露。三谷水産高（蒲郡市）は地元の深海魚

を使って調理などを楽しむ体験型のツアーを提案し、スライドを見せながら「ネットを使って販売したい」などと計画を説明していた。

三谷水産高二年の中孝之介さん（も）は「他校はさまざまな視点から発表していた。これを機に、他校とコラボ企画もしてみたい」と話した。

（高橋雪花）